

# 継続事業評価調書

## 【海岸事業】

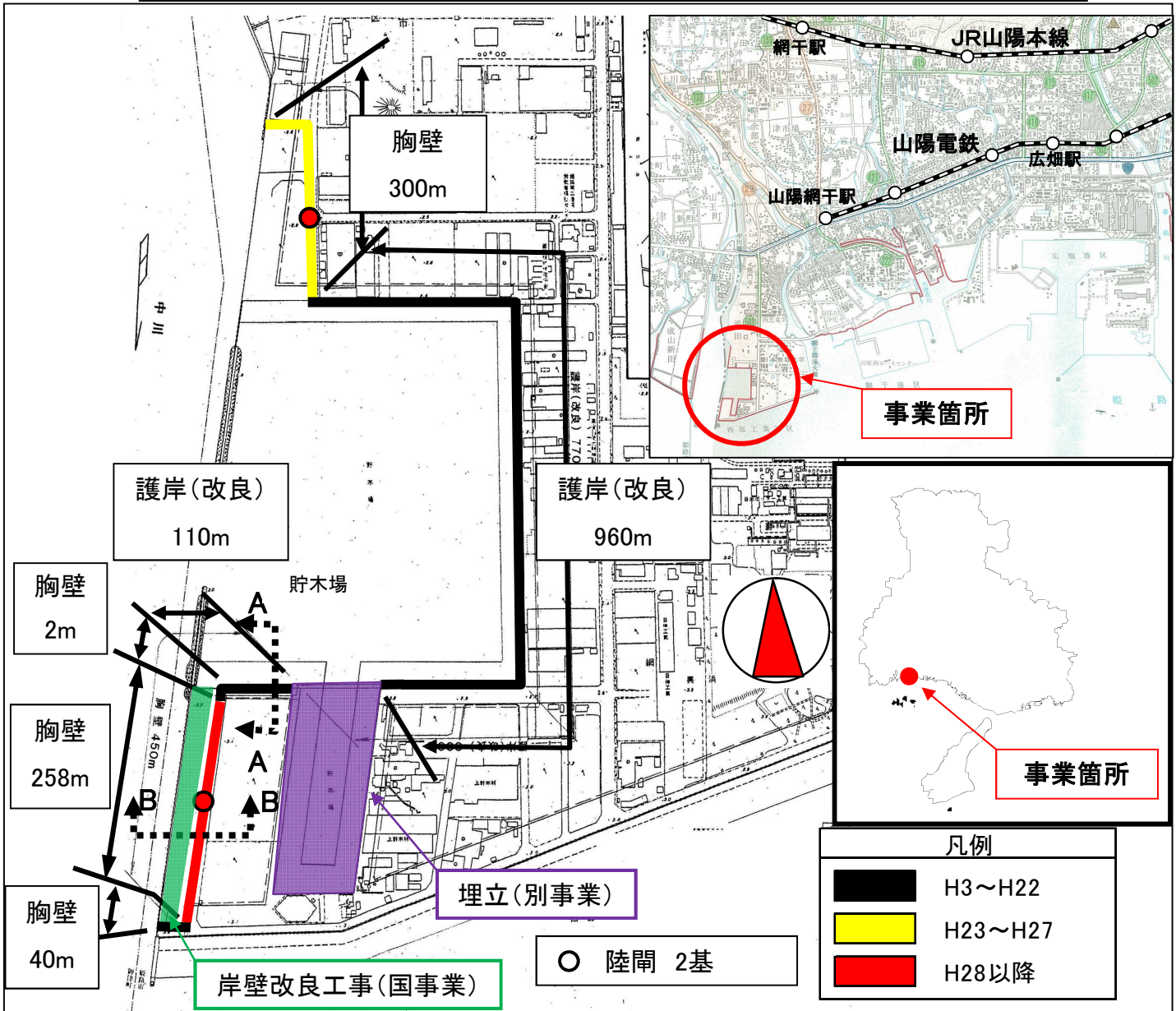
### 姫路港海岸高潮対策事業

県土整備部

土木局 港湾課

部課室名	県土整備部土木局 港湾課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	港湾課長 土江 明 (主幹(海岸・防災担当) 家永 薫)	内線	4440 (4452)
事業種目	海岸事業	新規評価年度	—	今回評価	前回評価
事業名	姫路港海岸 高潮対策事業	事業採択年度	平成3年度	総事業費	19億円
		着工年度	平成3年度	内用地補償費	—億円
		再評価年度	平成12年度、平成17年度、平成22年度	完成予定年度	平成29年度 平成24年度
事業区間	ひめじしあぼしくはまだ 姫路市網干区浜田	進捗率 (内用補進捗率)	94% (—%)	96% (—%)	
		残事業費	1.2億円	1億円	
事業の目的				事業内容 前回評価時点と変更なし	
○台風時の高潮による背後地への浸水被害の防御 姫路港の西端に位置する浜田地区は、背後に多数の企業、工場が立地し、地域の経済や産業の基盤を形成している。 しかし、前面の護岸は、昭和40年頃に築造されたもので老朽化が著しく、高潮に対する必要天端高さが不足しているため、護岸の安全性向上や高潮浸水被害の防止が喫緊の課題となっている。 このため、防潮施設の整備により、浸水被害の防止を図る。				護岸(改良) 1070m 胸壁 600m 陸閘 2基  【負担割合】 国：50% 県：50%	
事業を取り巻く 社会経済情勢 等の変化	①平成16年台風16号、18号と相次ぐ高潮による浸水被害により、防潮施設整備の必要性が高まっている。 【前回評価時点からの事業計画の変更概要】 ①平成22年以降、水面貯木場の埋立や港湾施設(岸壁・埠頭用地)の再配置等と併せて防潮ラインの位置を検討していたため、工事を中断していた。その後、平成26年に水面貯木場の長期的な利用方針を決定し、この方針を踏まえて防潮堤の位置を再検討し事業を再開した。そのため、事業完了時期を平成29年度に変更する。				
進捗状況	①護岸(改良)：平成20年度に1070m完成。 ②胸壁：平成27年度迄に342m完成。残る258mは平成29年度完成予定。 ③陸閘：平成29年度2基完成予定。				
評価視点	評価結果の説明				
審査会意見及び対応方針 (H22再評価)	【審査会意見】継続妥当		【対応方針】		
	①事業実施段階から、防災施設整備の必要性や効果についての積極的な説明や周知に取り組み、地域住民の防災意識の啓発に努めること。		①姫路港網干西地区(木材港)利用計画検討協議会において、地元に対し防災意識の向上や施設の必要性について周知を図った。		
(1)必要性	①残事業区間について、天端高さが不足しているため、胸壁を整備することで、背後地にある資産を高潮による浸水被害から防護し、地域の安全と安心を確保する必要がある。				
(2)有効性・効率性 (執行環境状況)	①費用便益費総事業B/C=1.5(前回評価時点B/C=1.8) 残事業B/C=8.2 ②残事業を完成させることで、浜田地区を浸水被害から防護することができる。				
(3)環境 適合性	①護岸(改良)工事については、既設護岸前面に設置することから、景観に与える影響は少ない。 ②胸壁工事についても、既存の岸壁背後に高さ1m程度の構造物を設置するものであり、景観に与える影響は少ない。				
(4)優先性	①現在、一部区間について未整備であり、必要な天端高さを満足していない。防潮施設は全区間完成することによりその機能を発揮することから、残事業区間について整備を行う必要がある。				
再評価の結果	継続	理由	事業の必要性は事業採択時と変わっておらず、防災機能の強化を図る必要があるため、継続して事業を実施する必要がある。		

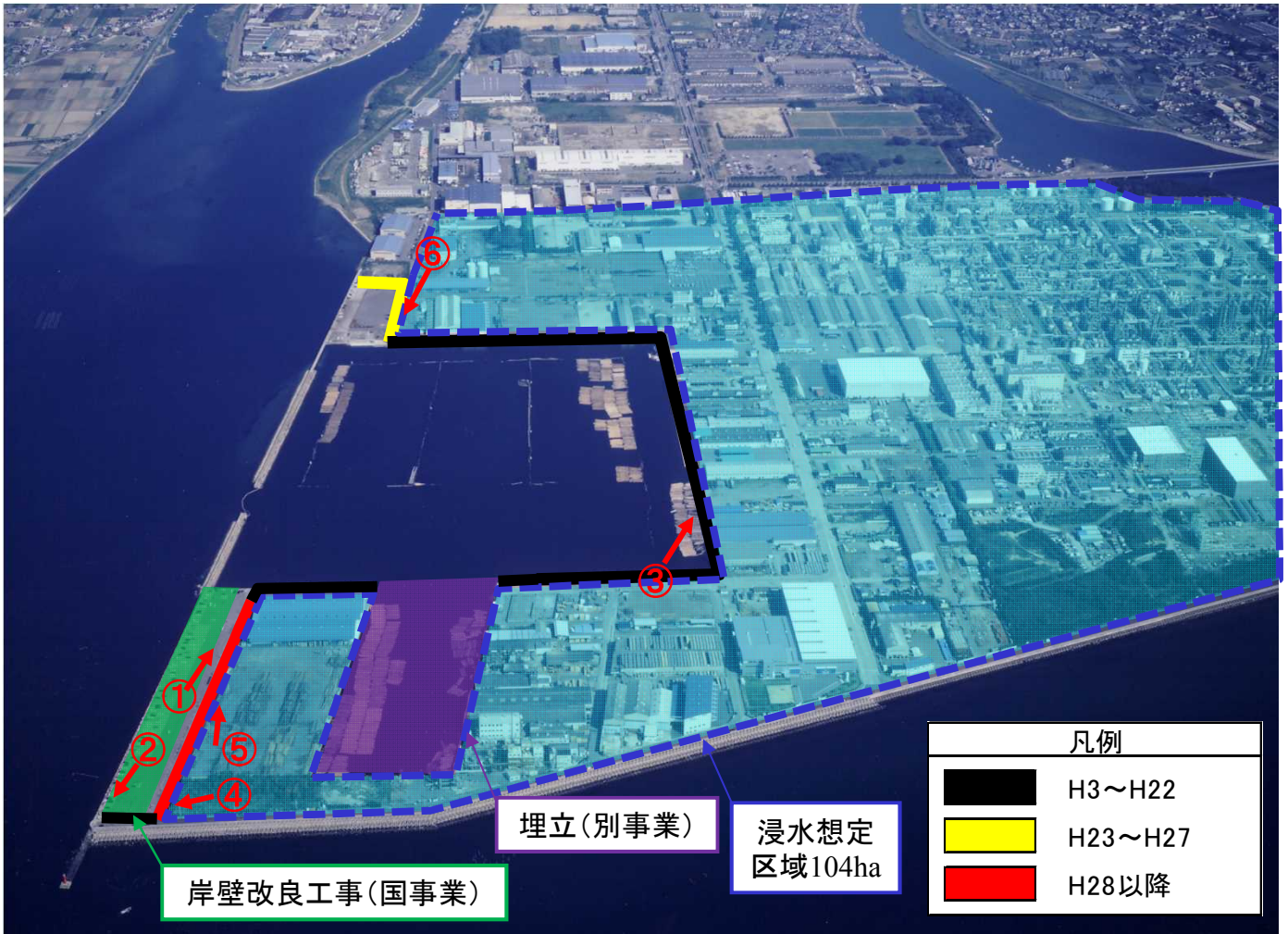
# 事業進捗状況概要図(継続:再評価(4回目))



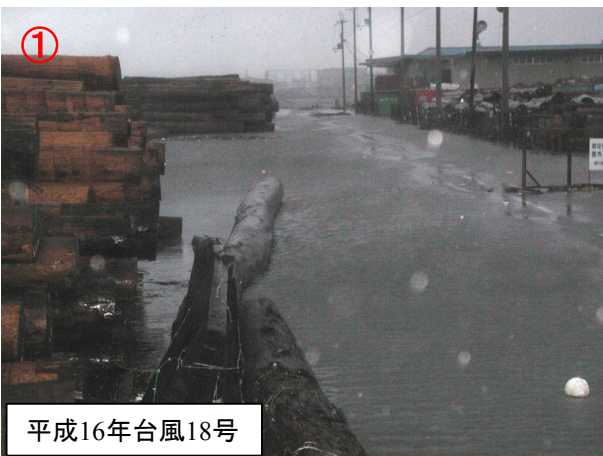
	事業進捗状況・予定	整備効果
全体 (H3~H30年度)	【事業費=19.3億円】 護岸(改良) 1070m 胸壁 600m 陸閘 2基	
前回評価時まで (H3~H22年度)	【事業費=17.9億円】 護岸(改良) 1070m 胸壁 42m	完成した護岸、胸壁により背後地を高潮による浸水から防護している。
過去5年間 (H23~H27年度)	【事業費=0.3億円】 胸壁 300m	完成した護岸、胸壁により背後地を高潮による浸水から防護している。
今後2年間 (H28~H29年度)	【事業費=1.2億円】 胸壁 258m 陸閘 2基	防護ラインが完成し、浜田地区を浸水被害から防護することができる。



# 位置図



# 台風時状況写真



# 姫路港海岸 浜田地区 高潮対策事業 整備箇所写真

③ 整備済み 護岸(改良)部

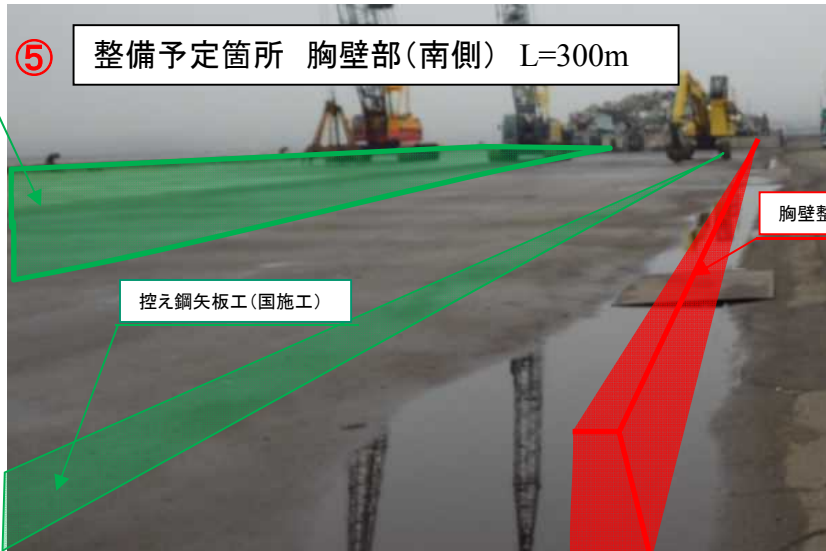


④ 整備済み 胸壁部



上部工(国施工)

⑤ 整備予定箇所 胸壁部(南側) L=300m

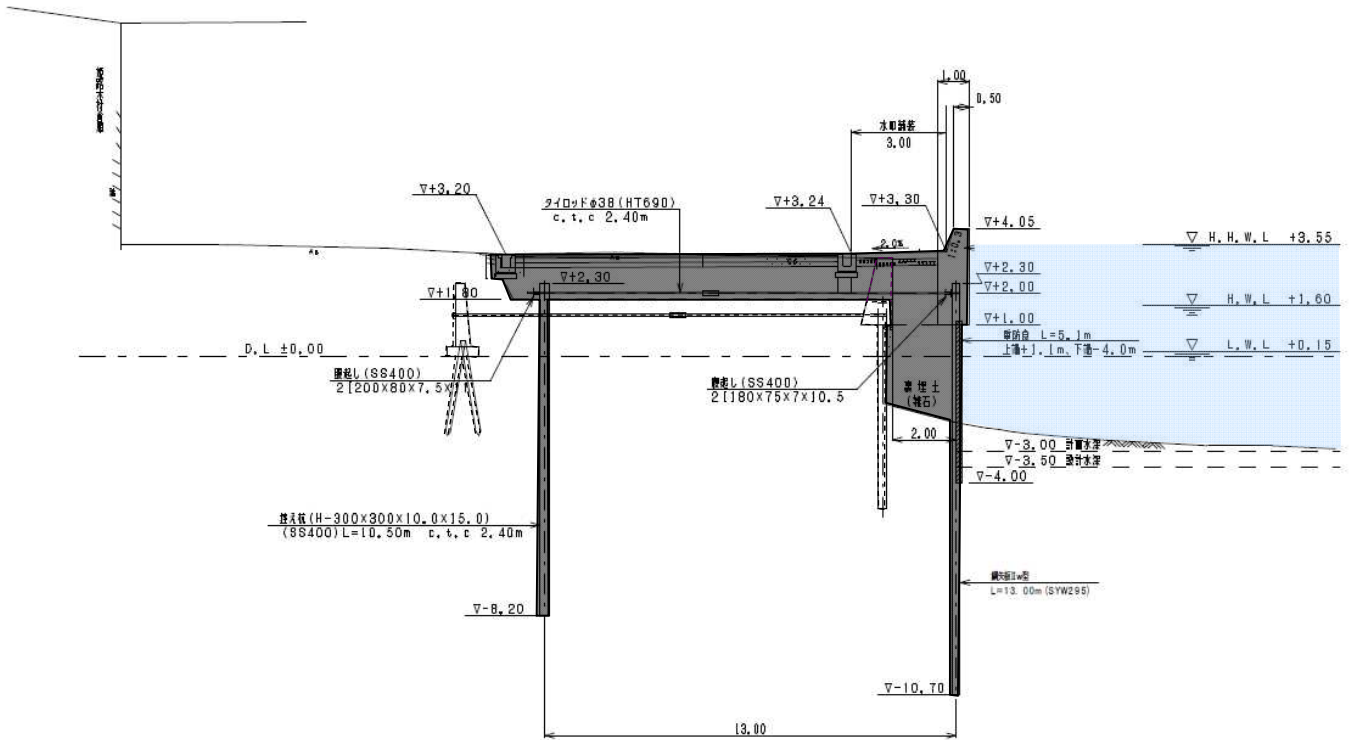


⑥ 整備予定箇所 胸壁部(北側) L=300m

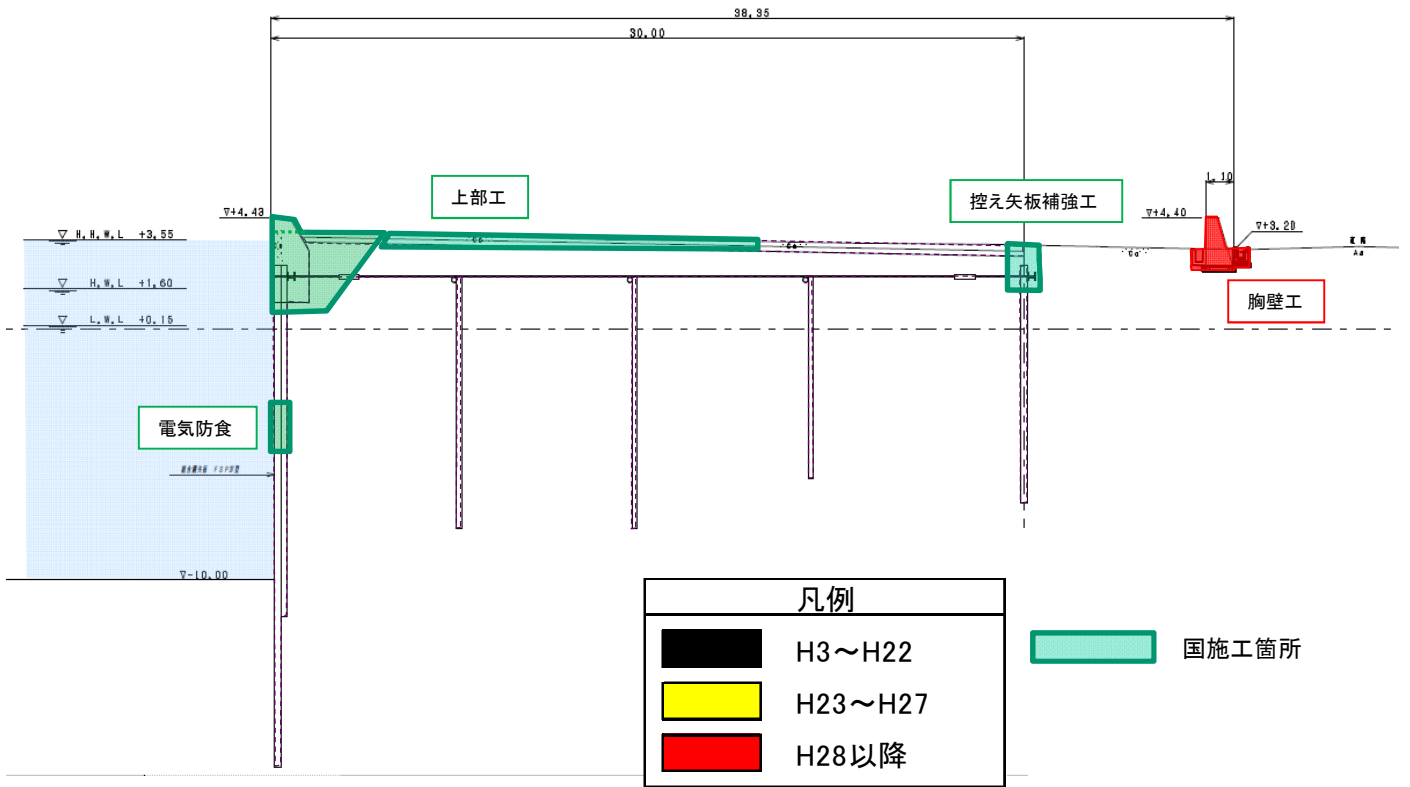


# 計画断面図

## 護岸断面図(A-A断面)



## 胸壁断面図(B-B断面)





## 1 スケジュール

	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	備考																				
護岸(改良)	[Blue bar from H3 to H20]																																															
胸壁(北側)																					[Blue bar]	[Blue bar]					[Red bar]																					
陸閘(北側)																					[Blue bar]	[Blue bar]					[Red bar]	[Red bar]																				
胸壁(南側)																				[Blue bar]	[Red bar]	[Blue bar]	[Blue bar]					[Red bar]	[Red bar]																			
陸閘(南側)																					[Blue bar]	[Blue bar]						[Red bar]	[Red bar]																			
国事業(南側)																											[Green bar]	[Green bar]																				

— : 当初計画  
— : 実施・計画

## 2 事業効果について

### (1) 費用対効果

#### ① 便益(B)の項目

事業	B(便益)	算出方法
海岸	① 浸水被害軽減便益 ○ 浸水想定区域内の一般資産、公共土木施設等被害、公益事業等被害の軽減による便益	整備無し of 想定浸水地域内の資産額 資産額: $\Sigma(\text{浸水が予測される地域の一般資産被害額(事業所資産)} + \text{公共土木資産等被害額} + \text{公益事業等被害額})$

#### ② 費用便益比(B/C)算出根拠

事業	事業名		B(便益)		代表的な効果	C(費用)			B/C
			便益額 (百万円)			総費用 (百万円)	事業費 (百万円)	維持管理費 (百万円)	
海岸	姫路港海岸高潮対策	全体事業費			① 浸水被害軽減便益				6,076
		残事業費	① 浸水被害軽減便益	939	浸水に伴う被害→0	115	104	11	8.2

### (2) 費用対効果に含まれない効果

- ① 交通遮断防止効果
- ② 関係企業の生産活動停止に伴うサプライチェーン寸断防止効果
- ③ 地価上昇効果

## 高潮対策事業の効果

対象事業：姫路港海岸 高潮対策事業

### (1) 費用対効果

評価の視点	効果項目 (費用対効果の便益内容)
浸水防護	浸水想定区域内の資産の被害軽減による便益

### (2) 費用対効果に含まれない効果

評価の視点		効果項目	該当する事業内容等
防 護	浸水防止	・交通遮断防止効果	○ 護岸改良、胸壁により浸水防止
		・関係企業の生産活動停止に伴うサプライチェーン寸断防止効果	
そ の 他	用地利用	・地価上昇効果	○ 護岸改良、胸壁により浸水防止

○印は当該事業効果の主な項目

### (3) 地域からの要望状況等

要望状 況等	背後地の企業等から、早期の事業完成を望む声強い。
-----------	--------------------------